

公表 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		なないろ楽団			公表日		令和7年2月 日		
	チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			活発なお子様が多いため、スペース内で満足できる活動を考えたり、外に出て気分転換したりして活動に取り組んでもらっています。	外に出て気分転換したり活動スペースを確保したりできている		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2		変則的な送迎や利用者様の状態で、適切な配置が難しいと感じることがあります。送迎が重なりパタパタしてしまうことがある。利用者に対して、職員の基準配置は確保しています。しかし、突発的な事態の場合には、職員配置が難しくなる場合も想定されます。普段から突発的な事態想定して職員配置をどうするかを会議で検討しております。利用者の増減や利用者の状況（機嫌が悪い等）により、職員の配置が足りないと感じることがある。一人ひとりに接するには職員の数は足りないと思われる	継続して、会議で突発的なことに対応していきます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			改善できてきているが、まだまだ改善できる部分はある。少しずつ過ごしやすい環境を整えていく。スケジュールボードを壁に貼ることにより、視覚的に利用者様に次何をするのかわかりやすいように工夫しております。また、車椅子の方が利用できるように簡易スロープの準備等しております。個人個人に合わせた教具等が一目わかる環境作りがもっと必要と思われる。(棚)			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			毎日利用者様が利用された後に清掃を行っております。また、季節に合わせて壁の装飾を変更して四季を感じやすいように工夫しております。子供たちが活動しやすい空間の工夫はなされている。活動中、本棚やおもちゃ棚を廊下に出し、スペース確保やケガの防止に留意している。もう少し広い活動スペースがあるといい。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			静養室を設けて、体調や状態によって使用できるようにしております。なかなか個別指導の部屋が場所を確保するのが難しいので工夫する必要があります。	ルールを設け、複数使用時にも対応できるようにしました。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			定期的なミーティングにより、改善点や問題点を出し、後日振り返り、更に次の設定や目標を話し合っています。月2回の放デイ会議を行ない、各会議で各が検討事項をあげ、話し合える場としている。また、朝礼時には前日の振り返りを行い、支援の良かったことうまくいかなかったことを共有している。隔週で会議を開催して、課題の取りまとめ、改善に向けてのアクションを取れるようにしております。	放デイ会議で業務改善、見直しをしています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		個々で確認はしているが、全員で把握する機会を設けていないです。保護者様からご意見をいただいた際には、会議を通じて年間でどのように課題解決していくか検討しております。保護者にもアンケートを取り、業務改善が必要なのは職員間で話し合い方向性を決める。	全体には流しています。不明点あれば職員間で共有します。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			朝礼、ミーティングで職員の意見や情報共有をしています。⑥に同じ。隔週の会議で、意見を上げやすいように事前に議事録に打ち込み会議で業務改善しやすいように行なっています。また、年に数回管理者との職員面談で意見交換する場を設けております。常に職員の横のつながりを持ち意見等を把握し業務内容改善に生きている。			

	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	1	今後検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			部門に分けそれぞれ研修を行なっている。 医療、防災、支援など施設内だけでなく外部のオンデマンド講座なども活用しながら知識を再確認したり深めたりしている。 法人内では、虐待防止研修等に取り組んでいます。また、自己研鑽できやすいように研修費を会社が一部負担して研修受講を促しています。 消防署や三重大附属の看護師等にきてもらい、研修会を実施してもらったり、職員間で研修の情報共有をし参加をししている。 研修等受講する機会を持たせてもらい職員の自己研修に役立っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	2		作成途中。今年度中にHPIにて掲示予定。 現在作成途中で今年度中には、HPIにて公表予定です。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			半年に一回保護者様や各担当者様と会議を開催して情報共有を行った際に、児童発達支援管理責任者を筆頭に職員間で課題を分析して、放課後等デイサービス計画を作成しております。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		1	個別会議やケース会議で、職員間の共通理解を深め、支援につなげています。 個々の個別支援計画をそれぞれの職員の目に触れることができるよう個別支援計画の評価や支援会議などには積極的に参加し意見できるようにしている。 放課後等デイサービス計画を作成する際は、児童発達支援管理責任者を筆頭に職員間で話し合い、課題に対してのより良い支援のための議論を行っています。	議事録にて周知できるような形をとっていきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			放課後等デイサービス計画を作成後は、計画を職員間で共有、確認しています。また、朝礼等を活用して利用者様の課題に対して、話し合うことも実施しております。 個別支援計画を最終全体で確認し、支援記録の記入用紙にも記載することで意識しながら支援を行うことができるようにしています。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			標準化されたアセスメントシートを使って、半年に一度利用者様の状態を見直しております。 保護者や学校と情報を共有したり、職員間で話合っで、個々にあったツールの使用を実施している。 なかなか子どもの対応行動を観察するのが難しく日々行動観察記録を大切にしていきたい。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			児童発達支援管理責任者を筆頭に個別支援会議を開催して、支援内容について検討しております。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			職員で内容を共有しながら意見を出し合っている。 担当者を主として、職員間でも意見を出し合いながら立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			固定化しないように新しい活動の一つは入れるようにしています。 個々の個別課題については児発管が主となって立案し、職員間で共有した後、職員間で改善し実施している。全体活動については職員が組み立て、他の職員の提案を加えながら立案しています。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			1日の流れを固定し、その中で個別活動と集団活動を個々に合わせて組み込んでいます。 児童発達支援管理責任者を筆頭に個別支援会議を開催して、支援内容について検討しております。	
適切な支援の提供	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			朝礼時に本日の支援の内容や翌日の支援の内容を確認し準備しています。 授業終了後に関しては、朝礼で支援内容について職員間で情報共有を行っています。	

	21	支援終了後は、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	アプリを使ってその都度、その日にあったことは共有はしています。 当日に支援の振り返りを行うことが難しいので、その日にはできない。送り等で職員がいない時が多いので次の日に前日の振り返りを行っています 職員のみで利用しているツールで、連絡事項や利用者様の様子はその都度伝え、 支援終了後は職員の勤務時間が合わないため、緊急な内容や共有事項については業務用の連絡ツールにて共有している。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援記録を支援計画と連携させて評価を行いながら記録している。また、朝礼時に振り返りを行い、個別活動や集団活動の中でできたことや苦手としていたことを共有し、支援方法を継続したり変更したりしている。 個別支援計画に基づいて記録を行っています。 日々計画を参照しながら、支援記録を書いています。 支援記録から、個々の支援を検討しています		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		支援計画の達成時期に応じて評価を行い、見直している。また、環境の変化等あればその都度見直しを行っている。 半年に一回、個別支援会議を行い、見直しを行っています。		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	7			地域のイベント、農業体験、クッキング、他事業所、地域交流、活動内容もリクエストを反映しています。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		部屋の外に行く際には、 トイレと手洗いどちらかに行くかを選んでもらうなど子どもたちに 選んでもらう機会を作っています。 絵カードや具体物で、自己選択できるように支援しています。 日々の生活の中で、活動に参加するしない、おやつを食べる食べない、どのおやつを食べるか、自由は遊びは何に取り組むか。など個々に応じて自己決定をする場面を設定し支援している。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		基本的に児童発達支援管理責任者が参加しています。		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	1	年に数回学校に見学に行き、情報共有を行っています。	就労先、他事業所、入院先など、連携をとっています。今後、連携できる体制を更に整えていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			年に一回は必ず学校を訪問し、学校での様子を見せていただいている。また、送迎時にはその日の様子を伺い職員全体で共有している。 担当職員を立てて、情報が拡散しないように情報連携の工夫を行っています。 学校へ年間通してこどもたちの学習の場に立ち会うことがありその情報共有は役立っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	4		当事業所への利用が決まった時点で就学前に利用していた関係機関との情報共有を行なっています。	継続して、訪問をしていく。そのことを周知していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			卒業までの支援内容を学校等の情報提供で続けられる支援の内容を検討中である。 障害福祉サービス事業所等へ移行する際には事前に訪問し支援内容の共有を行なっている。また、作業内容などを学校や事業所と共有し、スムーズに移行できるよう支援しています。	今後検討していきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5		まだ研修する内容をわかっていないので自分自身はそんな機会があれば参加したい。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		7		近所の公園に行ったり公共の場へお出かけする活動を通して地域と触れ合う活動を取り入れている。今度児童館へのお出かけも検討していきます。 学校から帰ってくる時間もかかり、放課後の活動時間宿題、課題もあり交流の場は難しいです。	令和7年度実施予定
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5	1		今後検討していきます
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			送迎時に共有したり支援記録に記載した内容をお伝えしたりして共通理解できるように努めている。 送迎時やSNS等を利用して、情報交換をしやすいように工夫しております。	

保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	1	今後していきたいとおもっている。研修会については案内を出している。	体制が整い次第、研修を検討しています
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			契約時に行なっている。契約時やご質問等があった際に、資料を基に説明を行っております。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		1	半年に1回程度面談を行い、お子様の成長や保護者様の想いを聞き、今後の進路や支援方法について意向を確認している。年に一回以上、自己評価表を保護者様に配布して意向を確認する機会を設けております。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			相談をいただいた際には、複数の職員がかかり必要な助言や支援を行えるような体制を整えています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	1	利用者様が保護者様と参加できる取り組みを増やしていく。また、保護者様同士が交流する場を今後検討し、提供していきます。	来年度開催予定です。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			契約書等に苦情の宛先を記載して、速やかに対応できるように組織で体制を整えています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		1	インスタグラム SNSを通じて利用者様の普段の様子を発信しています。インスタグラムにて投稿やストーリーでの活動報告を行なっている。またLINEでイベント案内等も発信している。HPやInstagram、LINE等を活用して情報発信を行っています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7				
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		1		直接会う、文面でライン、感情が伝えやすい電話などの配慮。コミュニケーションカード。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	1	高校生のインターンシップを受け入れ、福祉について知ってもらったり、子どもたちと関わってもらったりする機会を設けている。また今後も受け入れを行っていきます。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		1	地震や火災を想定した避難訓練や避難経路、避難場所の確認など定期的に内容を変えて訓練を行なっている。また、消防署への通報訓練や心肺蘇生など消防署に依頼して訓練を行なっている。半年に一回以上避難訓練を実施しております	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			同上。またBCPについては定期的に見直しを行なっている。半年に一回以上避難訓練を実施しております。また、非常食の試食、防災備品の確認等さまざまなことを想定して情報共有、訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		1	1回目のアセスメントの際に聞き取りを行い、その後受診内容や最近の変化については情報を共有している。契約時にアセスメントシートを用いて、状態、対応方法を確認しております。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	1	医師の指示の元該当児童なし。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7				
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	1		今後SNSで発信していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			会議でヒヤリハットについて、再発防止に向けて検討しております。	定期的に研修会を行っている
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			年に数回法人内で研修を実施しております。また、年に1回外部研修を受講しております。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7			現在身体拘束を行っている利用者様はいませんが、年に数回身体拘束に関して、法人内で研修を実施しています。	